

2025年11月の振り返り&今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等

ワイエムアセットマネジメント株式会社

加入協会

金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指標・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資のために使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2025年11月の振り返り

12月FOMCに対する思惑が交錯

市場	変動要因 等
債券（金利）	<p><u>米国債券は上昇（金利は低下）</u> 10月FOMC（米連邦公開市場委員会）で12月利下げに慎重姿勢が示されたことから月半ばまで金利は上昇しましたが、9月雇用統計で失業率が上昇したことや、NY連銀総裁らFRB高官が12月利下げを支持する発言を行ったことで、12月FOMCの利下げ期待が高まり、金利は低下しました。</p> <p><u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> 高市新政権の財政拡張政策による国債需給悪化懸念から、金利は上昇しました。</p>
株式	<p><u>米国株式市場は横ばい</u> 10月FOMCで12月利下げに慎重姿勢が示されたことやAIに対する過剰投資が懸念されAI関連銘柄を中心に下落したものの、後半はFRB高官の発言を受けて利下げ期待が再び高まり、株式市場は上昇しました。</p> <p><u>国内株式市場は上昇</u> 為替相場が円安方向に推移したほか、米国の利下げ期待を背景とした米株高が支えとなり、TOPIXは上昇しましたが、日経平均株価は寄与度の大きいAI関連銘柄の下落により下落しました。</p>
リート	<p><u>海外リートは上昇</u> 利下げ期待が後退したオーストラリアのリートは下落しましたが、12月FOMCの利下げ期待により米金利が低下し、概ね海外リートは上昇しました。</p> <p><u>国内リートは上昇</u> 株高を背景としたリスク選好の動きから、国内リートは上昇しました。</p>
為替	<p><u>為替相場は円安</u> 高市新政権の財政リスクへの懸念を受けて、円安方向に推移しました。</p>

今後のポイント

◎日銀は追加利上げ実施へー約30年ぶりの0.75%水準へ

- ・ 12月18－19日の金融政策決定会合に向け、植田日銀総裁は企業の賃上げ動向を精力的に収集していると明言し、「12月の会合で利上げの是非について適切に判断する」と発言しました。
- ・ 市場では、今回会合で0.25%の利上げが実施され、**政策金利が0.75%へ引き上げられるとの見方が強まっています。**
- ・ これは 約30年ぶりの水準であり、日銀の政策正常化が新たな段階へ入ることを意味します。利上げ直後は金利上昇や株価変動など、一時的にマーケットが不安定化する可能性はありますが、引き続き緩やかな利上げスタンスが維持されれば、相場への影響は限定的にとどまるとみられます。

◎FRBは「利下げ」に向けて動くー12月FOMCのドットチャートに注目

- ・ FRB高官が12月利下げを示唆したこと、市場は12月10－11日のFOMCで利下げが実施されるとの見方を織り込みつつあります。
- ・ 今回FOMCでは、政策金利見通しを示す「ドットチャート」で**今後の利下げペースが焦点**となります。政府機関一部閉鎖の影響で、一部経済指標の発表が遅れているため、**慎重な利下げ予想となる可能性**があります。
- ・ 今回の日米金融政策は、2024年12月FOMCと2025年1月日銀金融政策決定会合と同じような道筋をたどっているという指摘がされています。その時と同様に、FRBが今後の利下げに慎重な姿勢を示した場合、一時的に市場が不安定化するリスクは残ります。

◎AI投資の過熱感は解消されるかーオラクル決算に注目

- ・ AI関連企業による巨額投資が大きなテーマとなっています。
- ・ オラクルは多額の借入によってAIインフラ投資を拡大しており、**「投資回収の道筋が不透明」との懸念**が根強く残っています。
- ・ 12月10日に控えるオラクルの決算は、そうした不安を払しょくできるかどうかの試金石です。
- ・ 市場の注目点は次の2つです。①クラウド事業が市場予想を上回る成長を示せるか、②AI関連投資の収益化がどこまで見通せるようになったか、これらが市場の期待に応えられれば、「AI投資は過大ではない」「回収可能性がある」と評価され、AI分野に対する不透明感の後退につながる可能性があります。

主な相場変動要因

(2025年9月末～2025年11月末)

【相場変動要因】



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。